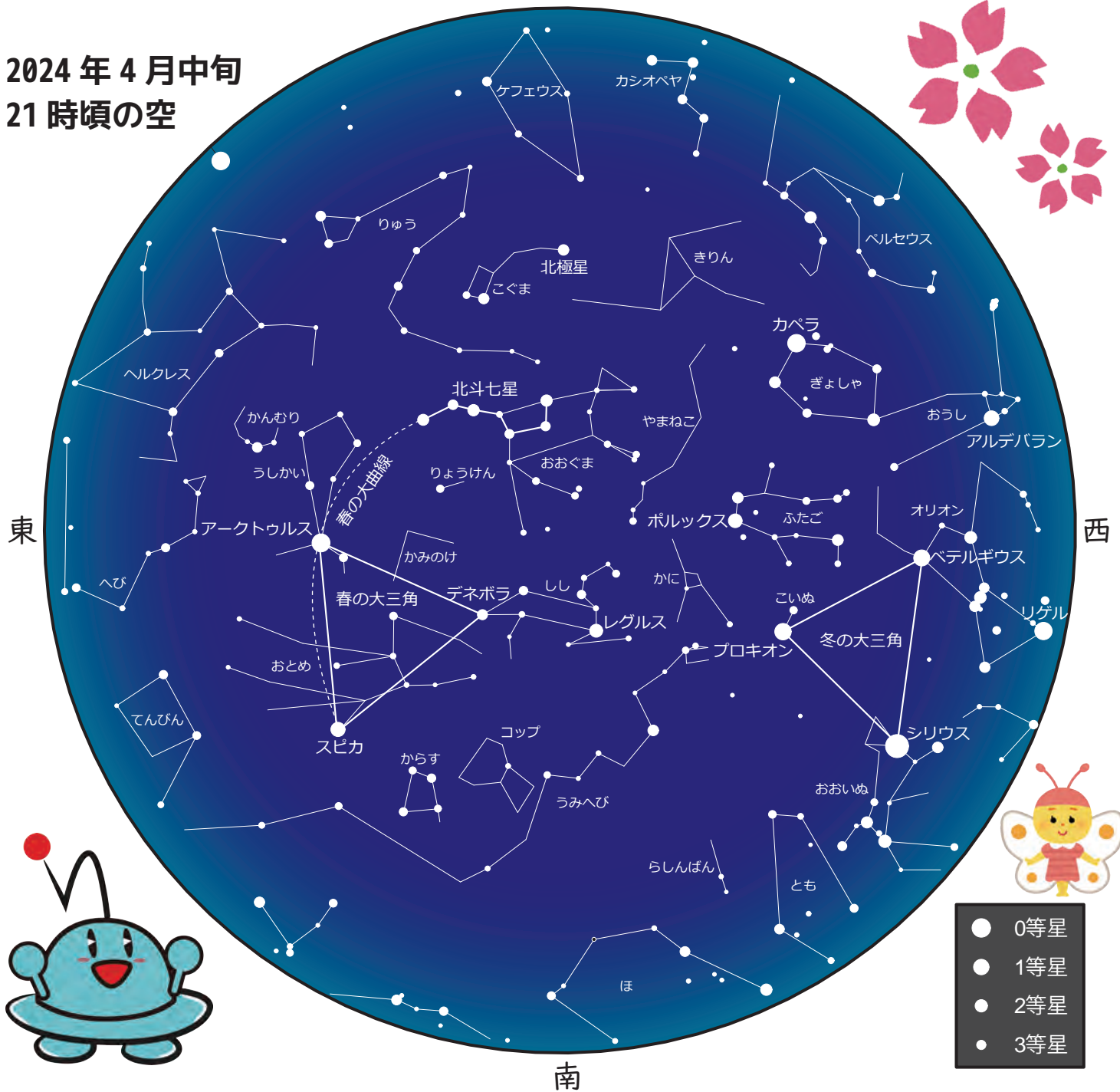


阿南市科学センター

4月の星空案内

北

2024年4月中旬
21時頃の空



春真っ盛りの4月。夜空を見上げれば、しし座のレグルス、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカといった春の明るい星々がならんでいます。空高いところには北斗七星が見え、その形はよく柄杓（ひしゃく）に例えられています。この柄杓の部分、弧を描くようにのばしていけば、アークトゥルスやスピカをたどることができ、これを春の大曲線と呼んでいます。さらに春の大曲線を延長すれば、4つの星が台形型にならんだからす座も見つけることができます。からす座を作る星たちは約3等星と暗いですが、空の程よい高さで小さくまとまって見えるため、意外に目立つ星座です。なおアークトゥルスとスピカに加え、しし座の尾のあたりで輝くデネボラ（2等星）という星をつなぐと、春の大三角を形作ることもできます。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて【毎週土曜日開催 / 19時～, 20時～, 21時～】

阿南市科学センター

電話 0884-42-1600

<http://ananscience.jp/science/>

4月の月の満ち欠けと惑星について



下弦
2日



新月
9日



上弦
16日



満月
24日

天体観望会で
月が見えるおすすめ日時は？



4/13(土) : 全ての回で観察可能



4/20(土) : 全ての回で観察可能

水星 : 太陽に近く観察は難しい (4/12 内合)。

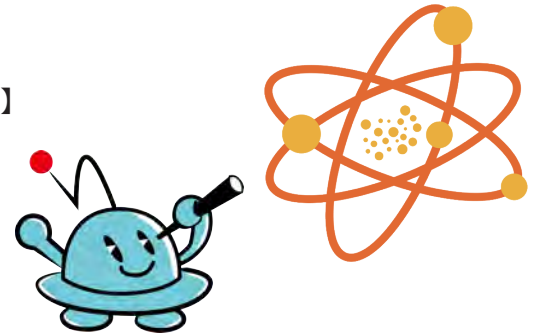
金星 : 夜明け前、東よりのごく低空に位置する (6/5 外合) 【約 -3.9 等】

火星 : 中旬頃、明け前に東より低空で土星と並んで見える 【1.2 等】

木星 : 日没後、西よりの低空で見えるがすぐに沈む 【約 -2.0 等】

土星 : 中旬頃、明け前に東より低空で火星と並んで見える 【約 1.1 等】

※各惑星の等級は中旬頃の明るさ。



今月のおすすめ天体

【春の代表的な銀河 M82】



図1 : おおぐま座の銀河 M82 (撮影 : K. Imamura).
113cm 望遠鏡 + STX-16803E (LRGB 合成)

北斗七星の一部にもなっているおおぐま座は春の代表的な星座の一つです。おおぐまの後頭部の位置には M81 と M82 という二つの銀河がならび、このうち M82 は短期間に質量の重い星が爆発的に誕生していることから、スターバースト銀河とも呼ばれています。距離は 1200 万年離れており、お隣の M81 もほぼ同じ距離に位置しています。

科学センターの大型望遠鏡では月明かりの無い晩に目を凝らせば、図1のように帯状にのびた淡い光芒と、中央部には割れ目のような黒い筋を観察することができます。

イチオシ天体写真

【約 70 年ぶりの地球圏 ポンス・ブルックス彗星】

ポンス・ブルックス彗星 (12P / Pons-Brooks) は 1812 年にフランスの Jean-Louis Pons によって初めて発見された天体です。その後 (約 70 年後の)、1883 年にアメリカの William Robert Brooks によって再発見され、今日二人の天文学者の名からポンス・ブルックス彗星と呼ばれています。この彗星は約 70 年の周期で太陽の周囲を公転し、最も太陽に近いときは金星軌道付近、最も遠いときは海王星軌道付近に至ります。20 世紀以降は 1954 年頃に再び太陽に接近し、数多くの観測記録が残されました。それからまた月日が流れ 2024 年に入り、約 70 年ぶりにポンス・ブルックス彗星が地球圏に回帰し、当館でも 3 月 10 日の宵の口、北西の低空で立派な尾をひく姿が観測できました (図 2)。予報では太陽に最も近づくのは 4 月 21 日頃。その頃には観測できる高度がとても低く、観測や撮影は 4 月上旬頃までが勝負と言えるでしょう。



μ -210 + x0.8 reducer + ASI294MC-pro
40sec x 25 (bin x2)

図2 : ポンス・ブルックス彗星 (撮影 : 2024 年 3 月 10 日 19:30 頃 / K. Imamura).

※この写真は一般財団法人全国科学博物館振興財団の支援を受け撮影しています。